

本四高速による美術館・博物館との 協力を通じた地域連携の推進

—「せとうち美術館ネットワーク」の取り組みを中心に—

本州四国連絡高速道路株式会社 地域連携事業企画部 事業企画グループ

はじめに

瀬戸内企業を標榜する当社が、瀬戸内地域に存在する美術館や博物館などの文化芸術施設をネットワーク化し、地域の交流促進および活性化、こどもの美術鑑賞教育の普及を図ること等を目的として2008年に6施設より発足し、2023年4月1日現在84施設（画像-1）が参加するまでに成長した「せとうち美術館ネットワーク」の現在の取り組みについて、以下より紹介していく。



（画像-1）せとうち美術館ネットワーク参加施設所在地一覧

1 せとうち美術館ネットワークパスポート

「せとうち美術館ネットワーク」では広域周遊を促進する活動の一つとして、ネットワーク参加施設を紹介する冊子「せとうち美術館ネットワークパスポート」（画像-2）を発行している。このパスポートは、それぞれの施設の写真と概要、カフェ等の有無といった美術館・博物館巡りに必要な情報を掲載しており、ネットワーク参加美術館の多くで使用できる割引券も添付している。また、2022年度までは冊子に展覧会情報を掲載していたが、こちらについては後の章で述べる「せとうちアート通信」という媒体で独立して情報発信



（画像-2）せとうち美術館ネットワーク小冊子

を行っている。

美術館・博物館巡りに付加価値をつけることを目的に、2023年度より「デジタルスタンプラリー」を開催している（画像-3）。2022年度までは紙の台紙にスタンプを押す形でスタンプラリーを開催していたが、スマートフォンで気軽に参加できる「デジタルスタンプラリー」を採用したことにより、ネットワーク参加施設の受付においてQRコードを読み取ることで電子上のスタンプを収集でき、より簡単に多くの人に参加できることを目指している。23年度は3館以上のスタンプおよび10館以上訪れた人にそれぞれ抽選での景品送付を企画しており、4月時点で紙のスタンプラリーよりも応募者が多いなど順調な滑り出しを見せている。

さらに、パスポートが単なる情報誌ではなく、瀬戸内地域の美術館・博物館巡りの記念となるように、来館の証明として各施設のページに御朱印（スタンプ）を押してもらうことができる御朱印帳としての機能を追加した。これは「デジタルスタンプラリー」とは同期していないが、2023年4月1日から2025年3月31日の間に84館すべての御朱印を集めた方には、ネットワーク参加施設での特別体験などのプレゼントの提供を企画しており、異なる価値を創出することで、さらなる瀬戸内地域の観光交流人口の増加につなげていきたいと考えている。



（画像-3）デジタルスタンプラリー紹介チラシ

2 せとうちアート通信

こうしたパスポート等に加え、ネットワーク参加施設で開催される展覧会の情報を一堂に会したタブロイド紙「せとうちアート通信」を2022年8月に創刊した。美術館・博物館で開催される魅力的な展覧会や特別展は、その数の多さや流動的に変更・追加されるという性質により、紙面の関係や一年に一回という発行頻度のパスポートにすべてを載せるには限界があった。そこで、最新の展覧会を数多く紹介することを目的に旬刊のタブロイド紙「せとうちアート通信」（画像-4）を年4回発行している。アート通信の表紙にはその号で掲載されているネットワーク参加施設の様々な展覧会ポスターをフルカラーで並べて掲載することで人目を引く構成としている。アート通信の記事にはそれぞれの発行時期に応じて開催を予定している各施設の展覧会の一覧を掲載している。加えて、各施設のコーナーでは、ポスターやチラシ、展覧会のイチオシポイントや料金などの基本情報ともに、一つの展覧会を詳細に掲載するページを設けている。今まで美術館・博物館のチラシ等は個々に配布・配置されていたが、これらをまとめることにより利用者の展覧会巡りの楽しみを創出していると考えている。また、毎号企画ページを設けており、類似のテーマを設定している展覧会を結ぶモデルルートや、アンケートにより集計した「美術館の担当者が行きたいと思う展覧会」の紹介などを掲載するなどの様々な企画を掲載し、紙面の充実に努めている。



(画像-4) せとうちアート通信

このような内容やデザインが評価され、創刊号は日本地域情報コンテンツ大賞 2022（主催：（一社）日本地域情報振興協会、後援：内閣府／経済産業省／観光庁／農林水産省／公益社団法人日本観光振興協会）タブロイド部門の最優秀賞を受賞した。2023年4月に発行した号では、当社の神戸淡路鳴門自動車道全通25周年および瀬戸大橋開通35周年の周年記念号として、橋と同じ年の美術館の変遷や23年度の展覧会の予定を掲載し、新しい取り組みとして各施設の体験会やワークショップなどのイベント情報を掲載するなど最優秀賞にふさわしい内容を追求するとともに、美術館・博物館巡りに対する付加価値向上を目指している。

今後は、デジタルスタンプラリーとパスポート、せとうちアート通信を連動し、より多くの層に美術館・博物館巡りを楽しんでいただける仕組み作りを検討していく。

3 せとうちアートセミナー

せとうち美術館ネットワークでは、美術館の方を始めとした講師を迎え、一般の方向けの講演会を行う「せとうちアートセミナー」を開催している。2022年は大原美術館・林原美術館・平山郁夫美術館の館長・副館長をお招きし、「瀬戸内から世界へ 世界から瀬戸内へ」を共通テーマとして3回アートセミナーを開催した。

2023年の「せとうちアートセミナー」については、神戸淡路鳴門自動車道全通25周年、瀬戸大橋開通35周年の記念事業として、4月には高松市美術館の学芸員の方を講師にお招きし、「橋と美術館－その変遷と多彩な美との共存について」と題した講演会を開催した。瀬戸大橋と同年に開館した高松市美術館の歴史についてご経験を踏まえつつ講演をいただき（写真-5）、アンケートでは「高松市美術館と瀬戸大橋の歴史変遷・共存について学ぶことが出来て大変良かった」、「瀬戸大橋、高松市美術館との今までの歴史、おもしろく、なつかしく、聞かせていただきました」と好評であった。6月にも横尾忠則現代美術館

の方を講師に迎え、同館の10年間の取り組みについて講演を行っていただく予定となっている。



(写真-5) せとうちアートセミナー (2023年)

終わりに

美術館・博物館を通じて地域に貢献していくことを目指している「せとうち美術館ネットワーク」は、今後は様々な相乗効果により、そのつながりを深化・発展させることを目標としている。その取り組みの例として、2022年には高松市美術館友の会からの提案により、当社の橋梁を巡るインフラツアーと美術館を組み合わせた旅行ツアーが企画されたほか、当社のサービスエリア・パーキングエリアのイベントで複数の美術館が出店してワークショップを開催するなどといったことが行われた。また、旅行会社と連携し、美術館の館長がアテンドする旅行商品など、せとうち美術館ネットワークならではの商品造成も行っている。このような相互的な活動なども通じて、「せとうち美術館ネットワーク」が文化・芸術面で瀬戸内の魅力を発掘し、地域の交流人口をさらに増加させる契機となることが出来れば幸いである。